



野村俊明先生追悼特集



故 野村俊明名誉教授の略歴

- | | |
|--------------------|----------------------------------|
| 1954 (昭和29) 年5月25日 | 埼玉県大宮市にて出生 |
| 1978 (昭和53) 年3月 | 東京大学文学部哲学科卒業 |
| 1986 (昭和61) 年3月 | 東京大学大学院教育学研究科教育心理学専攻 博士課程満期退学 |
| 1992 (平成 4) 年3月 | 日本医科大学卒業 |
| 1992 (平成 4) 年5月 | 日本医科大学附属第一病院神経科研修医 (精神医学教室入局) |
| 1994 (平成 6) 年4月 | 根岸病院医師 |
| 1997 (平成 9) 年7月 | 法務省関東医療少年院医師 |
| 2001 (平成13) 年4月 | 創価大学大学院文学研究科教授 |
| 2004 (平成16) 年4月 | 法務省東京拘置所保健課長 |
| 2005 (平成17) 年4月 | 法務省八王子医療刑務所医療第一課長 |
| 2008 (平成20) 年4月 | 日本医科大学心理学教授 (学生相談室長兼務) |
| 2011 (平成23) 年4月 | 日本医科大学新丸子主任 (2014年より基礎科学主任) |
| 2020 (令和 2) 年3月 | 日本医科大学定年退職 |
| 2022 (令和 4) 年1月25日 | 逝去 (満67歳) |

野村俊明先生のご逝去を悼む

日本医科大学名誉教授、野村俊明先生の訃報に接し、まことに痛惜の念にたえません。日本医科大学基礎科学関係者を代表し、ここに謹んで哀悼の意を表します。

先生は、東京大学文学部、東京大学大学院教育学研究科を卒業後、日本医科大学に入学され、1992年に卒業後、日本医科大学付属第一病院神経科の研修医となりました。1997年には法務省関東医療少年院に入職され、途中で短期間、文科系大学院で臨床心理士育成の教員をされましたが、その後も矯正医療に携わってこられました。2008年には、基礎科学（教養課程）の心理学教授として母校の日本医科大学に戻られました。日本医科大学在職中は、学生相談室長としても学生の心のケアをされるとともに、在職12年間のうち9年間は基礎科学主任として基礎科学を牽引されました。その功績により、2020年には日本医科大学賞教育部門を授与されるとともに、定年退職後は日本医科大学名誉教授となっております。

先生は、数多くの著書を執筆されましたが、中でも遺作となった『刑務所の精神科医』（みすず書房 2021）は多くのメディアに取り上げられるなど、話題を呼びました。まだまだ多くの著書を書かれるとともに、臨床医としてこれからも多くの患者の救いになられたであろうことを思うと、残念でなりません。

先生には基礎科学に多大なご尽力をいただきましたが、ご退職後わずか2年足らずというあまりに早すぎのご逝去に、関係者一同、気持ちの整理ができかねております。そこで今回、野村先生の後任の吉川教授の発案と、編集幹事の藤崎教授の尽力により、この日本医科大学基礎科学紀要において野村先生の追悼特集を組むこととなりました。ここに先生のご遺徳を偲び、衷心よりご冥福をお祈り申し上げます。